

令和7年度

運営に関する計画



大阪市立香簀小学校

～ 最終評価 ～

大阪市立香簀小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和4年3月、新たな「大阪市教育振興基本計画」が策定された。そこでは①「安全・安心な教育の推進」②「未来を切り拓く学力・体力の向上」③「学びを支える教育環境の充実」と3つの最重要目標が示された。

①では「社会のルールを理解し自ら律する力、他者を尊重し思いやる心、適切な人間関係を築くコミュニケーション能力、多様性や違いを受け入れる力など、子どもたちの道徳性・社会性の育成に努めます。」とある。学校教育アンケートでは、「あいさつがしっかりとできている。」と肯定的な回答をする児童は88.4%(前年95)で、高水準で推移している。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」と肯定的な回答をする児童は95.2%(96.1)で、高い数値となっている。本年も児童会が中心となり、あいさつ運動、あいさつボランティアや美化ボランティアなどに取り組み、あいさつの大切さを学び、自己有用感である「人に役立つことの喜び」と自分自身の成長につなげる取り組みをおこない、引き続き道徳性・社会性の育成に努める。また、防災・減災への意識が高まる取り組みとして多様な方々と関わり、命を守る行動がとれるよう継続的に取り組む。

②では国語科を研究教科とし、これまで積み上げてきた活かす学びの充実をさらに図るため、「まなびをつなぐ、課題をつなぐ」をテーマに、読解力向上に向けた取り組みを図る。新学習指導要領国語科に「伝えたいことを明確にする」「構成を考える」とあることから、表現力を伸ばすことを目的とし「自分の考えを深めたり、広げたりすることができる授業づくり」に取り組む。また、今後も家庭学習の定着や児童が主体的に学習に取り組める授業改善に取り組む。体力の向上については、かけ足集会やなわとび週間を継続して実施することによって、児童が自主的に運動に親しむ習慣を持つように今後も努める。

③では第1に個別最適化したデジタル化への対応や一人一台端末のさらなる活用に取り組む。第2に一人あたりの平均時間外勤務時間は減少傾向である。本年も効率的な校務運営に取り組む。第3に教員の資質向上に向けアップデートを常に意識し、養成段階に身に付けた知識技能だけに捉われず全員が自己研鑽に励む。

令和7年度 香簀小学校教育指針で共有したことを常に確認し合い、各課題に対し前向きに取り組む。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を87%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を43%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を昨年度以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・デジタル教材を活用した朝学習を週3回実施する。
- ・時間外勤務45時間以下の教職員の割合を97%以上にする。
- ・研究授業・検討会、教員研修会やメンター研修会を開催し、専門的な知識・技能を習得することを目指す。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- ・小学校学力経年調査におけるいじめアンケートを年間5回取り組み、「あなたはいじめを受けていますか」の項目の答え「はい」といういじめと判断される事案を前年度以下にする。→【R6 4.8%】
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。→【R6 1.35%】
- ・小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」を肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。→【R6 95.2%】

学校の年度目標

- ・年度末の校内調査において、あいさつに関する児童の回答肯定的割合が95%を上回るようにする。→【R6 95】
- ・年度末の校内調査において、児童会活動を充実させる取り組みを年3回以上行う。
- ・年度末の校内調査において、道徳教育についての児童の回答肯定的割合をすべて85%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」を肯定的に回答する児童の割合を96%以上にする。→【R6 95.2%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を43%以上にする。→【R6 42】
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。→【R6 -0.25（どの学年も国語か算数のどちらかの教科は目標を上回ることができたが「どちらの教科もいずれの学年も）は達成できなかった。）】
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合が前年度を上回るようにする。→【R6 70.2】
- ・小学校学力経年調査における「理科の授業で観察や実験を行うことは好きですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合が前年度を上回るようにする。→【R6 79.9】

学校の年度目標

- ・子どもの発達に応じた健康に関する指導に定期的に取り組む。
- ・食に関する指導を各学年2回、給食がんばり週間を年2回実施する。

【学びを支える教育環境の充実】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の87%にする。【ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く】→【R6 85】
- ・デジタル教材を活用した朝学習を週3回実施する。
- ・時間外勤務45時間以下の教職員の割合を96%以上にする。→【R6 95】

【変更】時間外勤務上限基準（45時間以下）を上回った延べ人数を前年度と同程度以下にする→【R6 8名】

本年度の自己評価結果の総括

大阪市教育振興基本計画の基本理念に則り、本校は「安全・安心な教育の推進」「未来を切り拓く学力・体力の向上」「学びを支える教育環境の充実」を中核に、児童の最善の利益を起点とした学校運営を進めてきた。本年度は、令和4年度からの中期目標の終盤として、これまでの取組の成果を確かめつつ、課題を次の改善段階へ滑らかに接続することを意識して、PDCAを継続した。

【安全・安心な教育の推進】

本年度は、いじめの早期発見と組織的対応の強化を重点に、いじめアンケートを年間5回実施し、該当事案は3.3%と前年度(4.8%)を下回った。初期兆候の把握と、日常的な見取り・情報共有の質を一段引き上げた結果である。ただし、今後もアンケートに現れにくいサインへの見立ての精度を高める「対話的観察」の比重を増やしていく。

一方、あいさつの肯定的回答は88%で、前年度(95%)を下回った。児童会・スマイル班による活動は年間を通じて維持・発展しており、実践の「量」は確保できている段階である。次年度は、活動の「量」から日常化と自己評価による内面化へと焦点を移し、家庭・地域と連動した行動定着の仕組みに踏み込みたい。

「人の役に立ちたい」は95.8%と高水準を維持し、奉仕活動・キャリア教育の体系化が自己有用感の育成に寄与した。道徳の児童アンケートでは項目平均99%と、「理解」から「行動」への接続を促す授業デザインが一定の成果を示した。次年度は、理解が行動に結びつきにくい一部児童への個別化を進める。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

国語科を中核に、スクールアドバイザーの助言(月2回以上)を得ながら、主体的・対話的で深い学びの授業改善を進めた結果、「話し合い活動で考えを深められる」最も肯定的回答は第1回46.2%/第2回43.6%となり、目標(43%)を達成した。ここは「授業構造の改善」段階を概ね突破したと評価できる。次年度は言語活動の質(発問・言語化・振り返り)を高め、「表現の構成」「根拠提示」などへ、レベルアップさせたい。

専科・習熟度別授業に関する最も肯定的回答は55.6%で、前年度水準を下回った。ただし肯定的回答全体は94.7%と高水準である。学習者の多様性に即した「個別最適な支援」と「協働的な学び」の両立が、次の成長段階に進む鍵である。単元冒頭の<到達イメージ提示>と単元末の<ふりかえり>を強化し、“わかりやすさ”の質を底上げする。

理科は、観察・実験や外部連携の充実を図ったが、「理科が好き」第2回68.8%で目標(80%)に未達。活動量は十分でも、学びの「面白さの核」が個に届く設計が課題である。「関心→継続→自己効力感」への段階的接続を強めたい。

体力・運動の領域では、「運動が好き」の最も肯定的回答は第1回75.8%/第2回71.8%と目標を達成。かけ足集会・なわとび週間、用具整備、トップアスリート招聘などの一連の取り組みにより習慣化したといえる。次年度は、休み時間の活用を意識して短時間でも運動に取り組みせるようにしたい。

健康教育・食育は、保健日より(月1回)・清潔調べ(月1回)、各学年2回の食育に関する学習と給食がんばり週間(年2回)を計画通り実施。生活習慣の自己点検が定着している。

【学びを支える教育環境の充実】

一人一台端末の活用は、朝学習の「NAVIMA」週3回以上を含め、全学年で定着している。Classroom/Teamsを通じた課題の提示・提出・連絡も定着した。なお、一部児童の主体性にばらつきが見られるため、自主的な学習へ向かう姿勢をさらに育てたい。

働き方改革では、時間外45時間超の延べ人数を8名→5名に削減(1月現在)。会議・行事の精選や「ゆとりの日」の徹底により、平均時間外も14時間16分→12時間36分へ縮小した。“制度と運用の両輪”が機能し始めた段階であり、次年度は年間の業務平準化と代替可能な体制のさらなる設計に取り組みたい。

教職員研修は計画的に実施し、年11回を実施。全員授業と助言の往還で授業改善の共有知が蓄積した。次年度は、成果の横展開(モデル授業の動画化・ミニ指導案集)により、個の学びを組織知へ接続する。

地域連携は、お芋パーティー、昔遊び、ジャンボカルタ、クリーンアップ、車いす体験などを継続。一方、HP更新は495回で前年度の1251回を下回った。年度中に更新方法の変更があったことが影響をしたが、今後も当日の「児童の学び」の発信に努める。

なお、昨年度に指摘した、不登校在籍比率の改善、理科好意の伸び悩み、あいさつの定着、学力の二極化、HP発信量の設計等の課題は、本年度で一部改善の芽が見られたものと、次年度に解決段階へ移行すべきものがある。

大阪市立香簀小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標</p> <p>①令和7年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を87%以上にする。→【R6 86.2%】→【R7 78.8%】</p> <p>②年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。→【R6 1.35%】→【R7 0.74%】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>③年度末の校内調査において、あいさつに関する児童の回答肯定的割合を95%を上回るようにする。 →【R6 95】→【R7 88%】</p> <p>④年度末の校内調査において、児童会活動を充実させる取り組みを年3回以上行う。</p> <p>⑤年度末の校内調査において、道徳教育についての児童の回答肯定的割合をすべて85%以上にする。</p> <p>⑥小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」を肯定的に回答する児童の割合を96%以上にする。→【R6 95.2%】→【R7 95.8%】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめの早期発見に取り組み、教職員の連携を強化し、児童が安心して学校生活を送ることができるようにする。</p> <p>指標 いじめアンケートを年間5回取り組み、「あなたはいじめを受けていますか」の項目の答え「はい」といういじめと判断される事案を前年度以下にする。【R6 4.8%】→【R7 3.3%】</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>児童の学校生活におけるあいさつへの意識を高め、あいさつをしようとする態度を育てる。</p> <p>指標 学校教育アンケート「あなたはあいさつがしっかりできていますか」の児童回答肯定的割合が89%を上回るようにする。【R6 88.4%】→【R7 88%】</p>	B
<p>取組内容③④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>児童会活動を充実させ、互いに認め合える集団作りをより目指すとともに、児童が楽しいと感じる学校づくりに努める。</p> <p>指標 学校生活ふりかえりカードにおいて「スマイル班活動では他の学年の友達と協力することができましたか」の児童回答最も肯定的割合を昨年度以上にする。さらに、児童会活動を充実させる取り組みの実施回数は年3回以上を目指す。【R6 79.8%】→【R7 85%】</p>	B
<p>取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>児童会活動での奉仕活動（あいさつボランティア、美化ボランティア等）を通して、将来を見据えたキャリア教育を実践する。</p> <p>指標 学校教育アンケートにおける「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して児童回答肯定的割合を96%以上にする。【R6 95.2%】→【R7 95.7%】</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>週に1度の道徳の授業と全教育活動における道徳教育（道徳科を中心としたカリキュラムマネジメント）の充実</p>	

を図り、児童の学びに向かう人間性を高める。

指標 毎学期末に行う道徳に関する児童アンケートにおける「道徳の授業では、お話や友達の意見から学ぶことができましたか」に対する児童回答肯定的割合項目平均を91%以上にする。

【R6 項目平均91%】→【R7 99%】

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

- いじめアンケートは年間5回実施し、結果として目標数値としては上回っている。
- 職員会議や主任会、生指部会等において毎月児童の様子や状況についても管理職・学年担任・特別支援学級担任・養護教諭で共有することができ、児童が安心して学校生活を送れるように努めることができた。
- いじめアンケートを実施していない時期でも小さなトラブルやいじめに該当しそうな案件について解決できるように聞き取りや指導を行うことで、重大ないじめ案件に発展するのを防ぐことができた。

取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- 児童会を中心として、あいさつについての取り組みを、年間を通じて行うことができた。
- 学校で身についたあいさつの習慣が校外での活動にも生かすことができています。

取組内容③④【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- 1学期にはかみフェス（夏祭り）、2学期には万博への全校遠足、3学期にはジャンボカルタ大会と、年間を通じてスマイル班活動を行うことができた。
- 今年度より、あいさつ運動や美化運動もスマイル班単位で行い、充実した取り組みができています。
- 取り組みの中で異学年とのつながりを深めながら、児童同士が協力する姿も見られ、児童がそれぞれの良さを発揮する機会を作り出すことができた。

取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- あいさつボランティアと学校周辺地域の美化活動を、3学期に4～6年のスマイル班単位で行った。
- 美化活動は、地域の方にも参加していただくことで、児童の地域への貢献の意識をより高めることができた。
- ボランティア活動は毎回たくさんの児童が参加しており、学校のため、地域のために貢献しようとする姿勢が感じられる。
- 児童会だけでなく、各学年でもキャリア教育を実施して、自己肯定感の高揚につながっている。

取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- 修学旅行や運動会だけでなく、今年度は万博への全校遠足など、特に大きな行事と道徳とを関連させたカリキュラムマネジメントを行うことができた。
- 道徳科を中心にしたカリキュラムマネジメントを活用し、行事や各教科などにも関連させることで、道徳授業が児童の生活につながるよう意識して取り組むことができた。
- アンケートの結果からも、道徳の授業で子ども同士の意見の交流の時間を大切に、友達の意見から自身の考えへとつながっていることがわかる。

次年度への改善点

- ・いじめアンケート年間5回実施の取り組みの継続
- ・いじめアンケート結果に現れない部分についての見取りの工夫
- ・年間を通じたあいさつの継続と児童への意識づけ
- ・異学年児童間で協力できる場の継続
- ・児童会活動の内容精選や時期の検討
- ・ボランティア活動やキャリア教育の継続
- ・学習したことを自分の生活で生かすことのできる道徳的教育の工夫

大阪市立香簀小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標</p> <p>①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を43%以上にする。→【R6 42】→【R7 36】</p> <p>②小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。→【R6 -0.25（どの学年も国語か算数のどちらかの教科は目標を上回ることができたが「どちらの教科もいずれの学年も」）は達成できなかった】→【R7 -0.01（5年生は国語・算数ともに目標を上回ることができたが、4年生と6年生はいずれのいずれの教科も目標を下回った）</p> <p>③小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が80%以上にする。→【R6 79.9】→【R7 44.7】</p> <p>④小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を71%以上にする。→【R6 70.2】→【R7 68.5】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>⑤子どもの発達に応じた健康に関する指導に定期的に取り組む。</p> <p>⑥食と健康に関する指導に年2回以上取り組む。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>国語や道徳を中心にICT等を活用しながら主体的で対話的で深い学びを成立させる指導の授業研究に取り組む。</p> <p>指標 授業改善のための計画・立案・実施においてスクールアドバイザー等に年間3回以上指導助言をもらい、授業研究に取り組む。その結果、小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を43%以上にする。【R6 42】→【R7 第1回 46.2% 第2回 43.6%】</p>	B
<p>取組内容①②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>習熟度別少人数指導などの学習形態を活用し、児童一人ひとりの能力や理解・習熟の程度に応じて、基礎基本の定着を図る学習や発展的な学習を行い、個々の力をそれぞれ伸ばす。</p> <p>指標 専科や習熟度別授業の児童アンケートで「わかりやすくなった」という最も肯定的な回答を前年度より上回るようにする。【R6 67.1】→【R7 55.6%】</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>自然との関わりを大切にし、理科学的な見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察・実験を行い、体験を重視した授業づくりや理科観察実験の充実を図る。</p> <p>指標 小学校学力経年調査における「理科の授業で観察や実験を行うことは好きですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合が前年度を上回るようにする。【R6 79.9】→【R7 第1回 81.8% 第2回 68.8%】</p>	B

<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>体力低下の回復を急がず、感染拡大防止に努めつつ、体育科の授業時に持久力を高める運動内容を取り入れると共に、体力の向上を図るためにラダー・ミニハードル・ジャンピングボード等運動器具の整備・充実を図る。トップアスリートなどの招聘などを通して、体力向上と運動への意識を高める。</p> <hr/> <p>指標 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を71%以上にする。</p> <p>【R6 70.2】→【R7 第1回 75.8% 第2回 71.8%】</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>健康な生活習慣の確立を図るため、子どもの発達に応じた健康に関する指導を行い、「ほけんだより」を活用して児童および家庭への啓発を行う。</p> <hr/> <p>指標 毎月「ほけんだより」を発行し、月1回せいけつしらべを行う。</p> <p>【年度末 ほけんだより（毎月発行済）せいけつしらべ（月1回発行済）】</p>	A
<p>取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>食に関する指導の全体計画に基づき、食に関する指導を行い、「給食だより」「食育通信」を活用して児童や保護者の食への意識を高める。</p> <hr/> <p>指標 食に関する指導を各学年2回、給食がんばり週間を年2回実施する。</p> <p>食に関する指導 【R7 2回実施済】 給食がんばり週間【R7 2回実施済】</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スクールアドバイザーには、月2回のペースで指導助言をもらい、対話的で深い学びにつながるのかを意識しながら授業研究に取り組んだ。 ○ 国語や道徳を中心にICTを活用し、視覚支援を用いて児童の理解を深めることや、意見交流の場を設けて、児童が互いに意見を共有し、考えを深めることができた。 ○ 年度末のアンケートでも、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合が43.6%と、目標を達成することができた。 <p>取組内容①②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 3・5年生の習熟度別学習や机間指導での個別対応、入り込み支援など、限られた人員の中で学習形態を工夫し、基礎基本の定着を図る学習や発展的な学習を行うことができた。 △ 専科や習熟度別授業の児童アンケートで「わかりやすくなった」という最も肯定的な回答は55.7%と前年度を上回ることはできなかったが、肯定的な回答は、94.7%と前年度と同程度の高い割合となった。（3～6年で回答人数が70名） <p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見通しを持って、観察や実験を行い、体験から学ぶことを重視した授業づくりを行うことができた。 ○ 出前授業や各種機関との連携によって体験の充実が図られた。 △ 年度末のアンケートでは、「理科の授業で観察や実験を行うことは好きですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合が68.8%と目標を達成することができなかったが、1回目は目標を上回っていた。 <p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ かけ足集会となわとび週間を実施した。休み時間にはトラックを走る児童やなわとびに取り組む児童の姿が多くみられた。 ○ ラダー、ミニハードル、ジャンピングボードなどの運動器具を活用しながら、どの児童も楽しいと思える授業づくりを行った。 	

- トップアスリートの招聘により、児童の運動能力だけでなく、興味関心や意欲も大きく高めることができた。
- 年度末のアンケートでは、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合が 71.8%と目標を達成することができた。

取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】

- ほけんだよりの発行と清潔調べを毎月行うことができた。
- 毎月の保健室前掲示物や委員会児童による動画など興味を持ちやすいよう工夫した取り組みにより、児童の健康に関する関心を高めることができた。
- 発育測定時の保健指導によって、児童が日々の生活習慣について振り返り、自らの健康について考える姿が見られた。

取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】

- 給食がんばり週間と食に関する指導は年間計画通り実施することができた。
- 委員会児童による日々の給食の放送や、全校児童による調理員さんへの感謝のメッセージを贈る活動などの取り組みによって、毎日の給食に感謝し、残さず食べようとする意識をもつことができた。

次年度への改善点

- ・専科や習熟度別学習の学習形態の維持・発展
- ・理科の授業による観察や実験の仕方の更なる工夫
- ・運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツの取り組みの継続
- ・体育面での取り組み内容の変更

大阪市立香簀小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組みず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標</p> <p>① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の87%にする。【ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く】→【R6 85】→【R7 93.9】</p> <p>デジタル教材を活用した朝学習を週3回実施する。</p> <p>② 時間外勤務上限基準（45時間以下）の達成率を96%以上にする。→【R6 95】-</p> <p>【変更】時間外勤務上限基準（45時間以下）を上回った延べ人数を昨年度と同程度以下にする</p> <p style="text-align: right;">【R6 8名】→【R7 5名】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>③研究授業・検討会、教員研修会やメンター研修会を開催し、専門的な知識・技能を習得することを目指す。</p> <p>④地域との交流会（年3回以上）の実施、学校ホームページの充実、オープンスクールなどを通して開かれた学校づくりを推し進める。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>一人一台端末を利用して、朝学習にデジタル教材「NAVIMA」を活用し、主体的に取り組む。</p> <p>指標 朝の学習に週3回以上取り組み、自学自習の習慣を意識づける。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>時間外勤務の少ない職場環境をつくる。</p> <p>指標 時間外勤務上限基準（45時間以下）の達成率を96%以上にする</p> <p>【変更】時間外勤務上限基準（45時間以下）を上回った延べ人数を昨年度と同程度以下にする。</p> <p style="text-align: right;">【R6 8名】→【R7 5名】</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>全員授業、研究授業・検討会を行ったり、メンター研修会を開催したりして専門的な知識・技能を習得することに取り組む。</p> <p>指標 校内で実施される各種の研修を、年7回以上にする。→【R7 11回】</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協同した教育の推進】</p> <p>地域関係諸機関との連携や学校ホームページの充実、オープンスクールを通して、開かれた学校づくりを推し進める。</p>	

<p>指標 地域との交流会を年3回以上実施し、学校ホームページを各学年週に1回以上アップする。 全体のアップ数は500回以上を目指す。【R6 1251回】→【R7 495回】</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習者端末の活用状況は、年間を通して高い水準を保っている。 ○ 「Class Room」や「Teams」を使い日々の連絡を行ったり、課題を出したり、児童が提出したりするなどの活用が進んでいる。 ○ 各学年で学習者用端末を活用し、週3日以上朝学習の時間に「NAVIMA」やデジタルドリルに取り組んでいる。 ○ 児童の考えを交流する場面などでのICTの活用が増えてきていて、対話的で深い学びになるような授業の取り組みが行われている。 <p>△ さらに主体的に意欲をもって取り組む児童が増えるよう、工夫が必要である。</p> <p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 12月時点の時間外勤務上限基準（45時間以下）を上回った延べ人数は5名で、年間8名以下という目標達成に向けて順調に進捗している。また、平均時間外勤務時間も、14時間16分から12時間36分と減少している。 ○ 行事や会議の精選が進められていて、教職員の負担軽減が進むとともに、教育活動により集中できる体制が整いつつある。 ○ ゆとりの日には、放送による呼びかけもあり、定時に退勤するケースが増えている。 <p>取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究授業や各種研修会が計画的に実施されていて、教員の学びの場として機能している。 ○ 全員授業とその後のスクールアドバイザーによる指導により、教員としての資質の向上が図れた。 ○ メンター研修により、先輩教員から専門的知識や技能を学ぶことができた。 <p>取組内容④【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協同した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ お芋パーティーや昔遊び、ジャンボカルタ大会、クリーンアップ作戦、車いす体験など様々な活動で地域との交流が進められている。 ○ HPは、アップ方法の制限により昨年度に比べてアップ数は減少している。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末の使用方法についての指導やルールの徹底 ・児童のモチベーションを高められるような朝学習の指導の工夫 ・年休を取得しやすい職場環境の継続や行事の効率化 ・研究授業や各種研修会の計画的な実施と教員の資質の向上 ・地域諸機関との連携や交流の継続 ・開かれた学校づくりの取り組み強化 	